

JAXA きぼう利用社会的課題対応テーマFS 提案書

H22_様式1

独立行政法人 宇宙航空研究開発機構
有人宇宙環境利用ミッション本部
宇宙環境利用センター
センター長 吉村 善範 殿

所属機関名 _____

所属組織長 _____

フリガナ

役職名・氏名 _____ 印

提案代表者所属部署 _____

フリガナ

役職名・氏名 _____ 印

「きぼう」を利用した社会課題解決テーマのフィジビリティスタディ提案募集について、以下の提案書を提出します。

なお、本書の記載事項は事実と相違ないことを誓約します。

JAXA きぼう利用社会的課題対応テーマ FS 提案書

H22_様式 1

(このページはA4、1枚でまとめてください。)

テーマの 名称	<ul style="list-style-type: none"> ・査読の表紙となるものです。 ・様式 2 以降の内容を簡潔にまとめてください。 		
提案代 表者	氏名(フリガナ):	生年月日(西暦):	
	所属機関/組織名:	テーマ実施の人数:	
	部署:	役職:	
	〒 住所:		
	連絡先(TEL / FAX / e-mail)		
緊急連絡先(携帯電話など):			
テーマの 要 旨	テ ー マ	(1) 課題の概略 <ul style="list-style-type: none"> ・様式 2 の内容を簡潔にまとめてください。 	
	背 景	<ul style="list-style-type: none"> ・様式 3 の内容を簡潔にまとめてください。 	
	目 標	(1) 最終目標 <ul style="list-style-type: none"> ・様式 4 の内容を簡潔にまとめてください。 	
		(2) 「きぼう」利用の位置づけ	
	計 画	(1) 「きぼう」利用計画 <ul style="list-style-type: none"> ・様式 5.1,2 の内容を簡潔にまとめてください。 	
		(2) 「きぼう」利用終了後の計画	
		(3) FS の期間 平成 年 月 ~ 平成 年 月	
		(4) FS の費用 (千円)	
研 究 開 発 成 果	(1) テーマ実施の基礎になる研究開発成果の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・様式 6 の内容を簡潔にまとめてください。 		
	(2) 研究分野		

テーマの内容

H22_様式 2

テーマの名称	
解決すべき課題	<p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会において、誰が、何処で、どの様な状態にありますか？ ・その状態を分析すると、どの様な課題が浮かび上がりますか？ ・どの様な状態があるべき姿としてイメージされますか？
課題解決手段と活動内容	<p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記の課題解決に、既に研究開発された成果や現在実施している事項をどの様に生かし、取り組めますか？ ・全体の計画のどの部分で、「きぼう」を手段として、どの様に活かしますか？ ・具体的な「きぼう」利用の内容は、何ですか？ ・あるべき姿をどのように実現しますか？
期待される成果	<p><ポイント></p> <p>「きぼう」利用の結果として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰が、どの様なメリットを受けますか？ ・上記の対象の社会課題は解決に近づきますか？ ・「きぼう」の利用により、どの様な状態になることが想像されますか？

(A4、1～2枚でまとめてください。)

テーマ実施の背景

H22_様式 3

1. SWOT 分析 (A4,1～2枚でまとめてください。) (記入例)

内 部 環 境	外 部 環 境
強 み	機 会
目標達成に貢献する組織の性質 ・ 十分、基礎研究が終了している ・ 十分、実用化構想がつまっている ・ 「きぼう」利用に関わった経験・実績がある ・ ・ ・	目標達成に貢献する外部の性質 ・ 住民の意識が盛り上がっている ・ 社会的希求性が高い ・ 関連の科学技術が発展している ・ ・ ・
弱 み	脅 威
目標達成の障害となる組織の性質 ・ 活動が不定期になる ・ ブランドがない ・ 人材、製造力が足りない ・ 「きぼう」利用に関わった経験・実績がない ・ ・ ・	目標達成の障害となる外部の性質 ・ 社会環境や文化が変化する恐れがある ・ 現行法令による制約が大きい ・ 経済状況が深刻 ・ ・ ・

- ・ 上記の背景分析を踏まえて、テーマ実施の社会的背景や緊急性、蓋然性・必要性、さらに活動そのものの妥当性を補足説明して下さい

2. 他組織との協同と競合

- ・ 類似のテーマは存在しますか？
- ・ その場合、協同関係にありますか、競合関係にありますか？
- ・ 協同、競合される場合は、どのような関係ですか？
(メリット/デメリット、優位性などについて記述して下さい)

3. 本募集へ応募した理由

- ・ 上記の背景を踏まえて、これまでの活動（実用化へ移行することも含めて）では制約・限界がありましたか？ — 実験環境、人、物、資金
- ・ 「きぼう」を利用することで、それらの困難は緩和・解決しますか？
- ・ 「きぼう」利用の結果は、現実の社会の課題解決に近づきますか？ — スピード、到達度

テーマ実施の目標

H22_様式 4

(A4.1～2 枚でまとめてください。)

1. 最終目標

- ・箇条書きでも結構ですから、「きぼう」利用成果を活かした最終目標（あるべき姿）を記入して下さい。

<ポイント>

- ・実用化目標は、製品化され収益をあげるもの、販売されていないが製造プロセスを革新して経済的効果をあげるもの、または数多くの当事者がその存在を希求し社会的価値が認められるもののいずれですか。
- ・小さなこと、ある分野限定でも結構ですから、具体的な目標を提示して下さい。
- ・そのためには、どの様な状態に達していることを想定されていますか？

2. FS 期間中の目標

- ・上記の最終目標に向けて、FS 期間中の目標を記入して下さい
- ・目標に対して、マイルストーンとなる事項と時期を明確化して下さい

(H22_様式 5.1、5.2 の実装活動の計画と整合性をとって下さい)

<ポイント>

- ・(～の達成などの表現に留まらず) 目標/マイルストーンともに可能な範囲で定量化して下さい
- ・努力目標ではなく、達成目標として宣言して下さい
 - ーどの程度まで「きぼう」利用成果を通じた実用化の目処をつけるか。
 - ーどの程度まで具体的な実験要求、使用装置を検討するか
 - ーどの程度まで「きぼう」利用の有効性を明確にするか
 - ー資金調達計画

3. 「きぼう」利用の位置づけ

- ・最終目標の達成に向けて、「きぼう」利用の位置づけを記入して下さい。

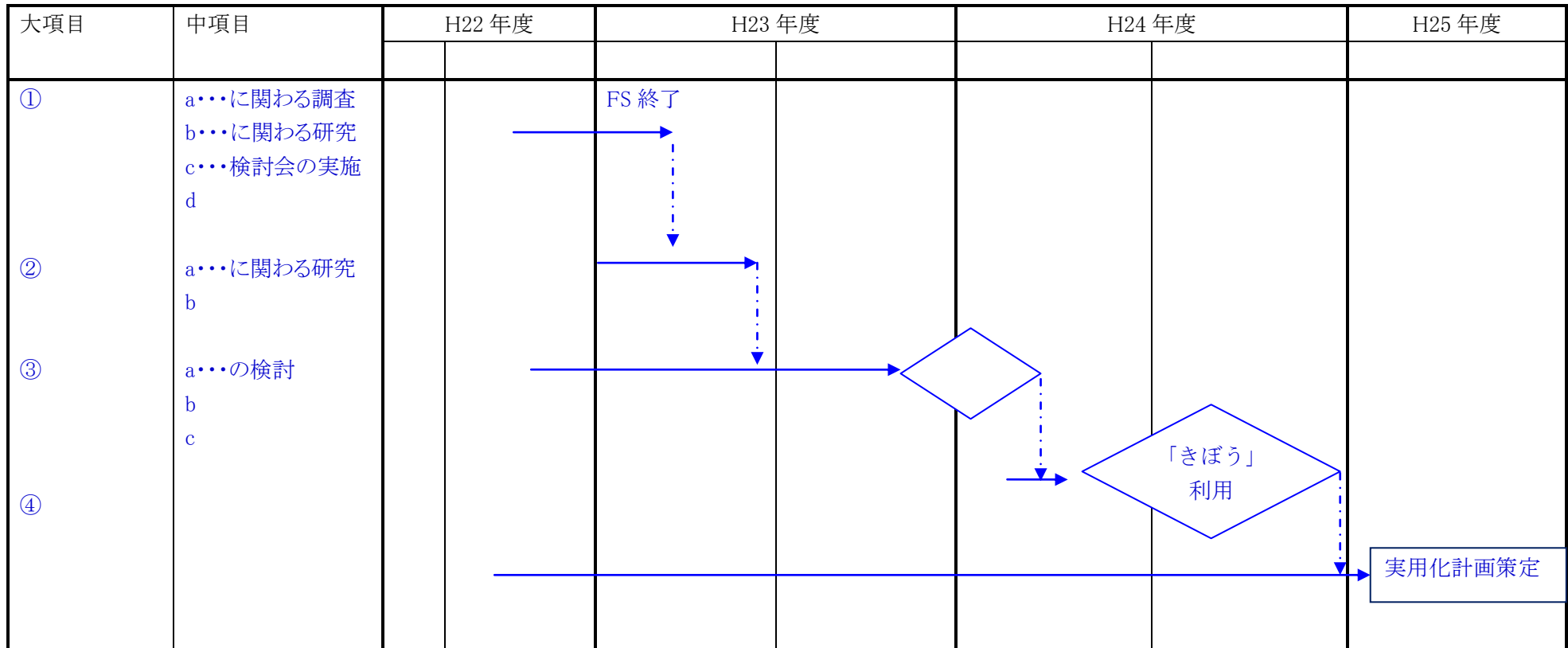
<ポイント>

- ・「きぼう」を通じて、達成が早まる、展開が拡大される、活動基盤が固まる等、何を期待しますか？
- ・現時点で「きぼう」が利用できなければ、活動はどうなりますか？

「きぼう」利用計画(Ⅰ)

1. 全体計画

H22_様式 5.1



背景と目標も踏まえて、上記の計画表（概要）を作成してください。

<ポイント>

- ・PDCA を考慮して、リスクヘッジされているか？
- ・四半期、上下期、年度などの区切りよりも、活動の進捗を考慮してスケジュールを作成して下さい。
- ・必ず、マイルストーン（時期、判定項目、その程度）を記入して下さい

「きぼう」利用計画(Ⅱ)

H22_様式 5.2

(A4,1 枚にまとめてください。)

2. 計画表の説明

- ・様式 5.1 の計画表で示した項目について、実施内容を具体的に記載してください
- ・FS を実施する期間を具体的に記載してください (平成〇年〇月～平成〇年〇月)

(資金計画との整合性も読み取れるように)。

- ・PDCA やリスクヘッジに対する工夫など自由に補足して下さい。
- ・併せて、マイルストーンについても、時期とできるだけ定量的な目安を説明して下さい

3. きぼう利用終了後の計画

- ・「きぼう」利用終了後の計画について説明して下さい

「きぼう」利用計画(Ⅲ)

H22_様式 5.3

(A4、1枚にまとめてください。)

1. FS 委託費の内訳(H22年度～H23年度)

(単位:円)

費目	種別	経費積算内訳		備考
		FY22年度	FY23年度	
1. 設備備品費				
2. 人件費				
3. 業務実施費	消耗品費			
	旅費			
	諸謝金			
	会議開催費			
	通信運搬費			
	印刷製本費			
	雑役務費			
	光熱水費			
	賃金(アルバイト費)			
	再委託費			
直接経費(1. ～ 3. の合計)				
4. 一般管理費 (間接経費)	直接経費の最大 30%			
小計(1. ～ 4. の合計)				
消費税額				
合計				

1. ～4. は消費税を含まない。

・FS フェーズの委託費の内訳を記入して下さい

2. 資金計画

単位(千円)

		FS フェーズ	「きぼう」利用 フェーズ1年度	「きぼう」利用 フェーズ2年度	「きぼう」利用 フェーズ3年度	合計
支出	設備備品費					
	人件費					
	業務実施費					
収入	調達先(1)					
	調達先(2)					
合計						

(「きぼう」利用フェーズが4年度以降も想定される場合、また調達先の数は追記ください。)

3. 特記事項

・その他、費用面で特記すべき項目を記入して下さい。

テーマ実施の基礎となる研究開発成果

H22_様式 6

研究開発の 課題名			
代表研究者		研究者番号	
所属 役職		研究 分野	
公的 資金名			
報告書番 号、URL 等	<ul style="list-style-type: none"> ・ URL が無い場合は、掲載された雑誌、特許、本などを明記して下さい ・ 別途、送付コピーをお願いする場合があります 		
知的所有権	有無： 番号：	使用 許諾権	・ 研究開発成果や特許権者から、本テーマ実施に対する使用許諾を得ていますか？
参考文献			
代表者との 関係			
研 究 開 発 成 果 の 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究開発成果の概要について記述して下さい ・ 様式 6.2 と併せて記入して下さい <p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家以外にも分かるよう平易な文章で記述して下さい ・ 必要に応じて、図表を用いても構いません ・ プロトタイプの試作や事業化計画の策定の経験はありますか 		

(A4、1～2枚にまとめてください。)

組織体制

H22_様式7

(A4,1~2枚にまとめてください。)

1. テーマ実施の組織図

- ・組織図を作成して下さい。
- ・実施機関に代表者と事務代表者が必要です

<ポイント>

- ・代表者のいる実施組織の組織長あるいは機関長と契約を締結させていただきますので、組織あるいは機関の了承を得て応募してください
- ・実施活動の基礎になる研究開発を行った人は誰か分かるように記入願います
- ・実用化の担当が分かるように記入願います

<記載例>

実施組織名称		電話番号
代表者 役職・氏名		
事務代表者 役職・氏名		
担当者 役職・氏名		

<再委託先 A>

名称	
住所	
電話番号	
担当者	
担当業務	
再委託の 必要性	
発注額 (予定)	

<再委託先 a>

名称	
住所	
電話番号	
担当者	
担当業務	
再委託の 必要性	
発注額 (予定)	

<共同研究 B>

名称	
住所	
電話番号	
担当者	
担当業務	
共同研究 の必要性	
資金負担 (予定)	

2. 代表者の略歴

他制度での補助金の有無

H22_様式 8

(A4,1 枚でまとめてください。)

研究者名：

制度名	課題名	期間 (年度)	助成金額 (千円)	役割	エフォート (%)
◎●プログラム	XXX	1年目	3,000	代表	20
		2年目	2,000		10
		3年目	1,000		10
■◆制度	XXX	H21年度	10,000	実用化	30
		H22年度	20,000	実用化	10

<背景の説明>

- ・採択中、あるいは申請中の他制度の助成と本プログラムとの関係、配分などをご説明下さい
- ・プログラム、制度主体で、代表者として記入下さい
- ・メンバーが重複する場合には、その旨も記入してください